

令和5年度 森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時：令和5年11月22日（水）

開催場所：くまもと県民交流館パレア 10階パレアホール（熊本市中央区手取本町8-9）

参加者数：73名

配信期間：令和5年12月1日（金）～令和6年11月30日（土）

配信場所：YouTube（森林総研チャンネル）

テーマ：長期観測でわかる森林のこれまでとこれから

長期観測に焦点を当て、長年にわたって当研究所で観測を行っている森林に関するさまざまなデータのもつ意味と森林整備についてご紹介し、「長期観測でわかる森林のこれまでとこれから」をテーマに開催しました。

また、YouTube（森林総研チャンネル）にて講演動画を配信します。

挨拶

○九州支所長 塔村真一郎

九州支所では毎年1回研究成果を一般の方々に知ってもらうために公開講演会を開催しております。今年は「長期観測でわかる森林のこれまでとこれから」と題して長年にわたって当研究所で観測を行っている森林に関するさまざまなデータのもつ意味と森林整備についてご紹介いたします。まず「森林整備センターが進める水源の森づくり」では森林の多面的機能を生かすための長期的な森作りの取り組みについて、2题目的「収穫試験地とは？～森林の成長に関する固定試験地～」では木材生産機能の長期観測について、3题目的「森林と水の関わりを科学する～森林理水試験地について～」では森林の水源涵養機能に関する長期観測について、最後に「森林の地下部炭素量の長期モニタリングと九州地方の炭素蓄積量」では森林の地球温暖化防止機能につながる地下部に蓄積する炭素の長期測定についてそれぞれご紹介いたします。続くパネルディスカッションでは、ゲストに九州森林管理局の池田計画保全部長をお迎えし、長期観測から見えてくるこれからの森づくりをテーマに議論を展開します。

講演

○森林整備センター九州整備局 三岡 朗

森林整備センターが進める水源の森づくり

森林整備センターは、昭和36年から水源林造成事業を実施しており、今年で62年目をむかえ、これまでに全国で約49万ヘクタールの水源の森を造成してきました。そこで、森林整備センターが長期にわたって取り組んできた水源林造成事業について、目的や内容、これまでの実績や効果、これからめざす森づくりを紹介します。

○九州支所森林資源管理研究グループ 近藤 洋史

収穫試験地とは？～森林の成長に関する固定試験地～

森林総合研究所では、全国の国有林内に、収穫試験地を設定して長期継続調査データを収集しております。当グループでは、九州森林管理局が管轄する国有林内に、これまで、スギ13箇所、ヒノキ21箇所、アカマツ1箇所の、合計35箇所の試験地を設定し、調査を実施してきました。これらの試験地の概要について紹介します。

○九州支所山地防災研究グループ 壁谷 直記

森林と水の関わりを科学する～森林理水試験地について～

山に降った雨が、どのように川にまで流れ下るのか？など我々の毎日の生活に欠かせない“水”と“森”の関わりについてわかりやすく解説します。また、森林総合研究所で取り組んでいる長期森林理水試験地についてその成り立ちと取り組みを紹介するとともに、熊本とカンボジアでの最新の研究事例を紹介します。

○九州支所チーム長（土壌環境評価担当）稲垣 昌宏

森林の地下部炭素量の長期モニタリングと九州地方の炭素蓄積量

平成 18 年から現在まで継続している林野庁事業「森林吸収源インベントリ情報整備事業 土壌等調査」の背景と目的、具体的な調査方法を説明します。さらに、九州地方の森林の土壌、枯死木、リターに含まれる炭素蓄積量の初期 5 年間の調査結果と他の地方との比較について、公表されている論文中的数据を用いて紹介します。

パネルディスカッション

講演後、ゲストに九州森林管理局の池田計画保全部長をお迎えし、長期観測から見てくるこれからの森づくりをテーマに議論を展開した。



講演 1（三岡）



講演 2（近藤）



講演 3（壁谷）



講演 4（稲垣）



パネルディスカッション

